

学籍番号：194038 名前：脇谷 椿 Tsubaki,WAKITANI

研究室：中村研究室

---

R5年度 長岡造形大学 美術・工芸学科 クラフトデザインコース 卒業研究

---

研究テーマ 「ガラスによる心象風景の表現」

---

### 研究の動機

元々私はインターネットカルチャーに興味があり、イラスト制作や音楽制作を行い、インターネットからディスプレイを通じて、一人のクリエイターが大勢の鑑賞者に作品を届ける、主にデジタルでの制作をメインとした創作活動に取り組んできた。

卒業研究について考えるにあたり、当初は私が専攻しているガラス領域の分野と、先述したインターネットでの創作活動を掛け合わせ、一つのテーマでそれらを複合させた表現を行いたいと考えていた。

しかし、四年次後期に実際に吹きガラス技法によってガラスという素材を扱い形にしていく過程で、複合的な表現を目指す以前に、私はガラスによって、何が表現できるのだろうか。また、何を表現したいのだろうか。という疑問が浮かんだ。

何か統一したテーマで作品を制作するにしても、どうしてもガラスと他の要素を結び付けた表現が見えてこず、その原因は私のガラスという素材そのものに対する理解の浅さにあるのではないかと考えた。

そこで私は当初思考していた複合的な表現を目指すのではなく、ガラスという素材と向き合い、ガラスのみによる表現について研究する方針にシフトした。

### 制作の内容

四年次後期、吹きガラス技法を用いてグラスや瓶など様々な色や形の作品を試作した。吹きガラス技法を選んだ理由として、任意の形状にガラスを成形するためには温度変化によるガラスの性質変化についての理解が必要であることと、ガラスの透明度を高く保ったまま成形できることの二つが挙げられる。

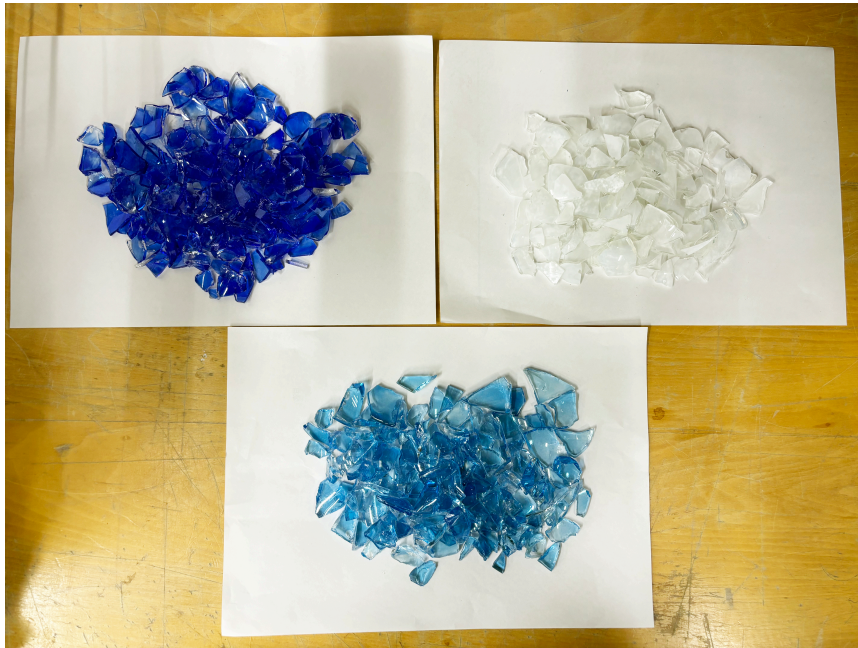
それは私がガラスという素材を扱い表現する上で、その素材特性を活かした作品を制作したいと思っていたからである。ガラスという素材は繊細で、高温で温めている時は自在に変形させることができるが、わずかな温度管理が出来ないとひびが入ったり、割れてしまったりする。常温であっても衝撃には弱く、傷付きやすい。



またガラスの基本的な性質として透明であることと、結晶構造を持たないことが挙げられる。透明度が高く光を通した時に見られるガラスの表情はガラス特有のものであり、私はそこに素材としてのガラスの魅力を感じていた。

そして結晶構造を持たないガラスの特徴は破壊形状にも現れ、割れていく方向がまったく予測できないという特徴を持っている。私はそのような素材特性に着目し、不規則に割れたガラスの欠片から素材としての美しさを感じた。

この段階で、ガラスを溶かして成形するのではなく、吹きガラスによって制作した色付きのガラスを砕いてできた破片を使って作品にするという手法を取ることにした。



### テーマについて

素材についての研究を進めていくと、私は自分の心の内にしかない感覚、心情を表すことが私の表現したいことだと思い、最終的な作品を作るためのガラスが出来上がった時点で、そのテーマが思い浮かんでいた。

キーワードは”寄せては返す心の風波”である。ここまでの制作で色ガラスとして選んできた色は白、青、淡い水色と、どれも海や波打ち際を連想させるような色であった。これらの色は落ち着きや冷静さを感じさせる一方で、儂さやどこか憂鬱な雰囲気も感じさせる。

ガラスの持つ繊細さや透明度と、私自身の心の内にある感情や心情は似ていると思うことがよくあった。ガラスの破片たちは、その一つ一つが煌めきを持っていて、それは私の記憶や刹那的な感情の欠片のようなものにも感じられた。しかし歪で、不規則に割れたガラスからは同時に”壊れてしまったもの”の儂さも感じる。それらの全てが今の私をつくり、私にとっては大切に、愛おしいものばかりなのである。

ガラスという素材と、私の心情を重ね合わせ、心象風景として表現する。それがこの研究が最後に向かうべきところだと確信した。

## 現代社会におけるアートの価値

しかし、インターネットが広く普及したこの現代社会において現代アートを創り出すことの価値は私たちにとってどのような意味を持つのだろうか。

私にとってガラスで自身の心情を表現することは、それを現代アートとして形にすることによって同じ現代を生きる他者とのコミュニケーションのツールのようなものにするという認識がある。世界観を共有することで生まれる新しい感覚や体験は価値を持ち、私と鑑賞者の双方にとって意味のあるものになる。と私は考える。

---

作品タイトル : sqzqnqmi

心を落ち着かせ、寄せては返す心の風波に耳を澄ませながら、穏やかな気持ちになろう。

---

作品のタイトルは心の小さな動揺という比喩的な意味も込めてsqzqnqmi(さざなみ)とした。アルファベットのaをqに置き換えているのは、インターネットスラングでqは泣いている顔文字に使われることがあり、表面上は穏やかであっても心の奥底では無意識に涙を流していることもある。それは感情の昂りによって流れる涙とは違い、本当に辛い時、自然と溢れてくる涙である。という意味を込めてこのタイトルにした。